# 九国プレ２０１７

# 国　　語

## 九州国際大学付属中学校

【注意事項】

1　開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。

2　開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。

3　試験時間は 50 分です。

4　解答はすべて、問題の指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。

5　問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。

6　答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

**字数制限のある問題については、句読点なども一字とします。**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 受験番号 | | 氏名 | |

一　次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。字数指定のある問題は、句読点なども一字と数えます。

サクラの葉っぱがまだ緑色をしている初秋に、ある質問を受けました。「数日間、雨が降り続いたあとの雨あがりの日、サクラ並木を自転車で走っていました。[A]、桜餅の香りがほのかに漂ってきたように思います。雨に濡れたサクラの葉っぱからは、桜餅の香りが漂うのでしょうか」というものでした。

桜餅の葉っぱからは、おいしそうな甘い香りが漂い、ⓐショクヨクをそそります。これは「クマリン」という物質の香りです。でも、①サクラの木に茂っている緑の葉っぱをもぎ取って香りを嗅いでも、桜餅の葉っぱの香りはしません。

サクラは、葉っぱが虫にかじられて傷つけられたときに、あの香りをⓑハッサンさせて、自分の葉っぱを守るのです。あの香りは、私たちにはおいしそうな気持ちのいい香りなのですが、虫には嫌がらせの香りなのです。そのため、葉っぱをもみくちゃに丸めて傷だらけの状態にすると、虫にかじられたのと同じ状態になり、数分後にあの香りがほのかに漂ってきます。

傷がついていない緑の葉っぱには、クマリンができる前の物質が含まれています。この物質には、まだ香りはありません。葉っぱには、もう一つの物質が含まれています。それは、クマリンができる前の物質をクマリンに変えるはたらきがある物質です。

[B]、傷がつかずに生きている緑の葉っぱの中では、二つの物質は接触しないようになっています。だから、クマリンができることはなく、香りは発生しないのです。ところが、葉っぱが傷ついたり、葉っぱが死んだりすると、これらの二つの物質が出会ってⓒハンノウします。その結果、②クマリンができて、香りが漂ってくるのです。

ですから、サクラの緑の葉っぱに数日間雨が当たっても、桜餅の香り、すなわち、クマリンの香りが漂うことはありません。[C]、質問のように、③なぜ雨あがりのサクラ並木で、桜餅の香りがしたのでしょうか。

原因は、桜並木のサクラの木の根もと付近にたまっている、サクラの古い落ち葉です。古い落ち葉は死んでしまっているので、桜餅の香りがほのかにします。お天気が続いていると、落ち葉はカラカラに乾いて水気を含んでいません。そのため、香りはほとんどしません。数日間雨が降ると、[X]と水を吸った落ち葉から、桜餅の香りがかすかに漂ってきます。

これはⓓヨウイに確かめることができます。雨あがりの日、サクラの木の根もと付近にある、水気を[X]と含んだサクラの古い落ち葉を一枚、そっと

拾い上げて、香りを嗅いでください。桜餅の香りがほのかに漂ってきます。

多くの植物の葉っぱは、秋に枯れ落ちます。そんな光景を見ると、さびしい気持ちになり、葉っぱの命のはかなさを感じます。しかし、葉っぱはもの悲しくさびしい気持ちで生涯を終えるのではありません。

親株のまわりに落ち、枯れ葉や落ち葉になっても、虫に食べられて糞になって土を肥やしたり、微生物にⓔブンカイされて土に帰り、「腐葉土」の素材となります。腐葉土とは、文字通り、落ち葉が腐って肥やしとなる土です。落ち葉は、土に帰り、若葉が育つ糧になるのです。

サクラの枯れ葉や落ち葉は、それだけではないのです。親株の根もと付近に落ち、虫の嫌がる香りを放ち、親を守っているようです。腐葉土になるギリギリまで、香りを放っているのです。④葉っぱの生き方の“すごさ”を感じずにはいられません。

（田中修『植物はすごい　生き残りをかけたしくみと工夫』より）

**問一**　ⓐ～ⓔのカタカナを漢字に直しなさい。

**問二**　A ～ C にあてはまる言葉を、次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

**ア**　では　**イ**　なぜなら　**ウ**　しかし　**エ**　つまり　**オ**　すると

**問三**　①「サクラの木に茂っている緑の葉っぱをもぎ取って香りを嗅いでも、桜餅の葉っぱの香りはしません」とありますが、私たちがサクラの葉っぱから桜餅の香りを嗅ごうとするとき、葉っぱをどのような状態にするとよいですか。「～にする。」に続くように二〇字で探し、書きぬきなさい。

**問四**　②「クマリンができて、香りが漂ってくるのです」とありますが、香りが漂うことについての説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

**ア**　傷がついた葉っぱにはクマリンを作る力が失われているので、傷がついた状態では香りは発生しない。

**イ**　クマリンができる前の二つの物質が接触し、香りが発生するのは、葉っぱが死んだときだけである。

**ウ**　生きている葉っぱにはクマリンが存在しないため、香りを発生させるためには葉っぱに傷をつける必要がある。

**エ**　クマリンは二つの物質からできていて、葉っぱはこの二つの物質を自由に接触させ、いつでも香りを発生させることができる。

**問五** ――③「なぜ雨あがりのサクラ並木で桜餅の香りがしたのでしょうか」とありますが、その答えを次の文のように説明しました。空らんに当てはまる言葉を指定された字数で文章中から抜き出しなさい。

> 桜並木のサクラの木の根もとにたまっている葉っぱは、すでにかれている［①（五字）］なので、［②（四字）］が生成されている。数日間雨が降ると、葉っぱは［③（二字）］を含むため、桜餅の香りが漂ってくる。

**問六** ［X］には共通して同じ言葉が入ります。共通して入る言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

**ア** ほんのり　**イ** たっぷり　**ウ** こっそり　**エ** はっきり

**問七** ――④「葉っぱの生き方の“すごさ”を感じずにはいられません」とありますが、葉っぱの生き方のどのようなところに筆者はすごさを感じたのですか。わかりやすく説明しなさい。

**問八** この文章の特徴の説明として、正しくないものを次から一つ選び記号で答えなさい。

**ア** 問いに対する答えだけでなく様々な知識を紹介することで、興味深い文章になっている。

**イ** 葉っぱに対して擬態語や心情語を用いることで、読者が理解しやすいような構成にしている。

**ウ** 香りの説明を具体的に表現することによって、読者にイメージさせやすいようにしている。

**エ** 問いに対する答えを文章の最後で明らかにすることで、読者にとって分かりやすい構成にしている。

二　次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。本文には一部省略があります。また、字数指定のある問題は、句読点なども一字と数えます。

えだいちと押野は同じ小学校の五年生の男の子である。ある日、押野は、自分が空想で描いたロボットたちがおもちゃを作る工場とそっくりの工場を見つけた。押野はその工場に行きたくなり、えだいちに声をかける。

「なあ、えだいち。おれ、ちょっと気になる場所があるんだ。」

そう押野が言ってきたのは、朝のラジオ体操が終わって、いつものようにおばさんにⓐ小言を言われたあとだった。

「気になる場所？」

「うん。川の向こうにあるんだ。たぶん工場だと思うんだけど。」

ふうん。その工場のなにが気になるのかはわからなかったけど、押野がわざわざぼくに言ってくるくらいだから、①相当気になってるんだなと思った。

「行ってみる？」

といったのは押野じゃなくて、ぼくだった。言ったとたん、押野の顔がぱあっと明るくなった。（中略）

「どのくらいかかるの？」

「自転車で、三十分くらいかな。」

母さんからもらった新しい自転車の出番だ。

「行こう！」

ぼくは押野について自転車を走らせた。押野の横顔はそわそわしているような落ち着かないような、そんなふうに見えた。

今日の空は曇っていて、太陽は見えない。けれど、暑いのには変わりない。自転車でも十分も走ると、背中や脇（わき）の下やお尻の間なんかにじっとりと汗をかいた。押野のTシャツも背中のところだけ黒く汗の地図ができている。

「あっちいな。」

うしろのぼくを振り返って押野が言う。

「でも、[A]照りじゃなくてよかった。」

「うん。」

新しい自転車は快適だった。ⓑ慣れてくるととても乗りやすい。速いし、ちょっとしたでこぼこ道でも楽にこなせる。ぼくには不相応かもしれないな、と押野の使い慣らされた自転車をみて思った。

風が吹いて、ゆっくりとした大きな雲が流れると、太陽が顔を出し、カーッと熱い光線を投げてくる。（中略）

見慣れない道を走っていく。いったいどこまで道はつながっているんだろう。このままずっとずっと走っていったら、日本一周ができるんじゃないだろうか。いつか、ぼくがもう少しちゃんとしたら、自転車に乗って行けるところまで行ってみたいと、夢みたいなことを思った。

「ねえ、もう三十分くらい経ったんじゃない？」

こんなに続けて自転車に乗ったのもはじめてだったし、とにかく暑さにへばってきた。（中略）

「あとどのくらいなの？」

「もう少しだよ。」

「どんなところ？」

ぼくの質問に、押野は少し難しい顔をしたあと、「笑うなよ。」とぼくに言った。

「笑わないよ。」

ぼくがそう言うと、押野は「ええっとね。」と照れたように話しはじめた。

「川の向こうの海側にあるんだけど……。」

海といったら、あと倍くらいの距離はあるはずだ。

「ふじみ川が海にあたるところがあるだろ。そのあたりに工場があるんだ。」

「なんの工場？」

「うん、それがさ、それが問題なんだ。」

スニーカーのかかとで地面をこすりながら、押野が少し考えるような顔をした。
「前に、母ちゃんの車に乗せてもらったときに、何度かその近くを通ったんだけどさ。」
「うん。」
②こんなふうに回りくどい言い方をする押野ははじめてだ。
「なんかさ、そこは、まるでおもちゃの工場みたいなんだ。」
「おもちゃの工場？おもちゃを作っている工場ってこと？」
「ちがうんだ。工場そのものがおもちゃみたいなんだ。おれが昔、空想して描いた絵があるんだけど。」
押野は絵がうまい。グッピーをメザシみたいに描いてしまうぼくとはちがって、押野はグッピーが今にも泳ぎ出しそうにたのしげに、本物よりももっと本物っぽいグッピーを描く。夏休み前の交通安全のポスターもクラスの代表に選ばれた。
「それは、ロボットたちがおもちゃを作る工場の絵なんだ。」
ぼくはそれを想像した。押野が描いた、ロボットがおもちゃを作る工場を。
「今から行こうとしている川の向こうにある工場は、おれの描いた工場の絵にそっくりなんだ。」
③ぼくはなんて言っていいのかわからなくて、ただじっと押野の顔を眺めていた。
「だから行ってみたかったんだ。近くまで行って、自分の目で確かめたかったんだ。」
そう話す押野の目は、いつも以上にきらきらしていた。ぼくの目にもきらきらが映って、ぼくまでなんだかわくわくしてきた。押野が描いた、想像の工場にそっくりの工場があるなんて、それを見にいかないでどうするのだ。
「④ぼくも見たいよ。」
「なっ。そうだろ。えだいちは絶対そう言ってくれると思ったんだ。」
押野にそう言われて、ぼくはうれしかった。
「いつも車から見るだけだから、実際に近くまで行ってみたいんだ。本当はなんの工場かも知りたいし。」
「ほんとにロボットがおもちゃを作ってたりして。」

ぼくが言うと、押野は「そうかもしれないぜ。」と目を輝かせた。

さっきよりも雲が張り出してきて、太陽をかくしてくれたおかげで顔のほてりがなくなった。けれどさっき、ちょっとだけⓒ雲間から顔をのぞかせた太陽のせいで、すでにぼくの頬は［B］と痛かった。絶対に明日あたり真っ赤になって、鼻の頭の皮がむけるだろうなと思った。（中略）

ぼくたちの声は夏の湿った熱い空気に吸い込まれて、うしろに流れて消えてゆく。たのしかった。こうして二人で自転車を走らせているのが、単純でⓓ明快で。しかもその先におもちゃ工場が待っていると思うと、ますます気持ちが明るくなった。

新しい自転車はとても軽快に道路を押してゆく。うんと小さい頃、母さんとどこかのサイクリングコースに行ったことを思い出した。サドルがふたつついたおもしろい自転車に母さんと二人で乗った。安定感のある自転車だけど、ぼくも母さんもうまくバランスがとれなくて、しかも力がないから、［C］とジグザグ運転になって、係のおにいさんがうしろで支えてくれたっけ。今なら、母さんがペダルを漕がなくても、ぼくの力だけで二人分漕げるのに。

「海だ！」

押野が指をさして右手側を示す。見ると、海の濃い水平線が細く見える。ひさしぶりに海を見た。けっこう近くにあったんだってことに今気が付いた。進んでゆくにしたがって、海はどんどんと幅を広げていって、ぼくはなんだか愕然（がくぜん）としてしまう。海が突然この世に現れたような感じがする。（中略）

※ひどくおどろくさま。

「えだいち、もうすぐだよ。」

押野が振り返って笑う。ぼくも笑ってうなずく。押野が立ち漕（こ）ぎになったのを見て、ぼくも真似（まね）をした。そんなことをしてもたいしてスピードは変わらないんだけど、気が急いてそうしてしまった。

ぼくたちは橋を渡（わた）った。橋の下はⓔ河口になっていて、ウインドサーフィンをやっている人を、珍しそうに何人かの人が見ていた。ぼくもはじめて見るヨットみたいなものをもっと見たいと思ったけど、それよりも今はおもちゃ工場だ。

「橋を越えたところにあるんだ。」

押野は自分に言うように、うしろを振り返らずに言ったけど、ぼくにはその声がよく聞こえた。

（椰月美智子（やづきみちこ）『しずかな日々』より）

**問一** ――ⓐ～ⓔの漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。

**問二** A ～ C にあてはまる言葉を、次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ぴりぴり　　イ キンキン　　ウ カンカン　　エ よたよた

**問三** ――①「相当気になってるんだなと思った」とありますが、押野が気になっている理由を次の文のように説明しました。空らんに当てはまる言葉を指定された字数で文章中から抜き出しなさい。

> いつも車から眺めることしかできなかった工場は、押野が ①（二字） して描いた工場に ②（四字） で、その工場が自分が ① した通りなのかを、実際に自分の目で ③（三字） たかったから。

**問四** ――②「こんなふうに回りくどい言い方をする押野ははじめてだ」とありますが、なぜ、押野は回りくどい言い方をしたと考えられますか。適切でないものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 空想で描いた工場を現実の世界で見つけた不思議さを、順序立てて話すことでえだいちの興味を引こうとしたから。

イ 空想で描いた工場を現実の世界でも見つけたというすごさを、えだいちにどのように説明しようかと考えていたから。

ウ 空想で描いた工場が現実の世界にもあるかもしれないと話すと、子どもじみていてバカにされてしまうと思ったから。

エ 現実で見つけた工場が空想で描いた工場とそっくりだという現実離れしたことを話すのが、照れくさかったから。

**問五** ――③「ぼくはなんて言っていいのかわからなくて」と思っていたえだいちが――④「ぼくも見たいよ」と思うようになりました。このように思うきっかけとなったものはなんですか。文章中の言葉を用いて、二〇字以内で答えなさい。

**問六**　この文章の展開に「自転車」が関わっているとも考えられます。そこで、「自転車」についての次の各問いに答えなさい。

i　この文章には、えだいちが「自転車」のことについて思い出している場面があります。それはどこからどこまでですか。初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

ii　今回の押野との旅を通して、えだいちは自転車に関するある願望をいだきます。その願望とはなんですか。文章中から二十一字で書きぬきなさい。

**問七**　次にあげる会話は、この作品を読んだ後に先生と生徒で、作品の感想を話し合ったものです。空らんに当てはまる言葉をひらがなで五字以内で自分で考え、書きなさい。

生徒A…この物語は、押野とえだいちの友情の深さを感じることができる内容だと思いました。

先生…そうですね。それがこの物語の大きなテーマの一つだと思います。他にも何かテーマが思いついた人はいますか。

生徒B…はい。ぼくは、小学生の男の子ならではの［　　］心もテーマだと思いました。

先生…それはどのようなところから読み取れますか。

生徒B…えだいちが新しい自転車に乗って見慣れない道を走ることを楽しんでいたり、おもちゃ工場のことを考えると二人の目がきらきらしたりしているところから読み取りました。ぼくもまだ行ったことのない世界に、自分の力で行ってみたいと思います。

生徒C…私もBさんと同じ意見で［　　］心を感じました。私は、工場に近づくにつれて、これまで自分が見たことがない世界が広がっていることに驚き、知らない世界をもっと知りたいと思う気持ちが表現されていると感じました。

先生…確かにその通りですね。

三　次の各問いに答えなさい。

**問一**　漢字の読みには音と訓があります。次の熟語の読みは□の中のどの組み合わせになっていますか。ア～エの記号で答えなさい。

①　貝柱　　②　車窓　　③　消印　　④　仕草

| | |
|---|---|
| ア　音と音 | イ　音と訓 |
| ウ　訓と訓 | エ　訓と音 |

**問二**　次の慣用句の（　　）には、漢字一字が入ります。それと同じ漢字が使われているものをア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

①　（　　）に乗る・・・思い通りになって調子に乗ること。
**ア**　シャ輪　　**イ**　ト書　　**ウ**　トウ皮　　**エ**　シュ術

②　（　　）がすわる・・・心が決まっていて物事に動じないこと。
**ア**　満プク　　**イ**　モク的　　**ウ**　遠ソク　　**エ**　キ分

③　（　　）が立たない・・・相手が強くてかなわないこと。
**ア**　ベン当　　**イ**　コウ頭　　**ウ**　乳シ　　**エ**　リ用

**問三**　次の□に漢字二字を入れると四字熟語が完成します。それぞれにあてはまるものを後の語群から選び、漢字に直して答えなさい。

①　□東西　　②　自由□　　③　以心□

【語群】
でんしん　　ここん　　じとく　　じゅうおう　　じざい

解答用紙

九国プレ

# 国語

九州国際大学付属中学校

受験番号

氏名

得点

## 一

問一
ⓐ
ⓑ
ⓒ
ⓓ
ⓔ

問二
A
B
C

問三
にする。

問四

問五
①
②
③

問六
X

問七

問八

## 二

問一
ⓐ
ⓑ
ⓒ
ⓓ
ⓔ

問二
A
B
C

問三
①
②
③

問四

問五

問六
i
ii
〜

問七

## 三

問一
①
②
③
④

問二
①
②
③

問三
①
②
③